



TITLE:

# 醋酸纖維素皮膜製造及び紡絲試験 (第一報): 醃酵纖維素の品質と皮膜 の強度との関係

AUTHOR(S):

喜多, 源逸; 菅野, 源一郎

---

CITATION:

喜多, 源逸 ...[et al]. 醋酸纖維素皮膜製造及び紡絲試験(第一報): 醃酵纖維素の品質と皮膜の強度との関係. 化学研究所學術報告 1929, 1

ISSUE DATE:

1929-11-30

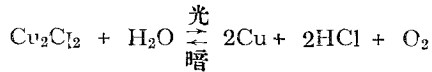
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/74501>

RIGHT:

進め生じた感光性の白色膠質は再生した  $\text{CuCl}$  (臭化物を用ひた時は  $\text{CuBr}$ ) であると思はれる。

此のハロゲン化物の光による作用は



の作用によるものゝ様である。

## 醋酸纖維素皮膜製造及び紡糸試験 (第一報)

### 醋酸纖維素の品質と皮膜の強度との關係

喜 多 源 逸      菅 野 源 一 郎

(工業化學雜誌 昭和三年第31編730頁)

曾て著者の一人等は (工業化學雜誌第27編23頁大正13年、Zeitschrift f. angew. Chem, 1924, 37, 414) アセトン可溶性醋酸纖維素製造の試験をなし製造の際の温度が重要な因子をなすことを認めたり此事實は已にオストの認めたる所なるが著者等の實驗によれば温度の影響は第一次醋酸化の際著明に現はれ第二次加水の場合には第一次の場合の如く著明ならざる事を知れり例へば比較的高温例へば25度にて醋酸化するものは水化を比較的低温度12度にて行ふも劣等なるアセトン可溶性醋酸纖維素を産するにも拘らず低温にて醋酸化するものに對しては加水變化の温度は著明ならず

本報告には製造の際の温度と製品醋酸纖維素より作れる皮膜の性質の間の關係を實驗せる結果を記述せり

其結果醋酸化に25度の温度を應用する時は皮膜の品位を劣等ならしむるも第二次加水變化の温度の影響此の場合にも著しからざることを知れり7度にて處理せるものは全部可溶性の醋酸纖維素を産せざりしが其可溶部に就て試験せり而して13度の場合に著しく差異なきことを認め此くの如き低温度使用が意味なき事を認めたり